

令和5年度第1回神戸市学校給食委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年11月9日（木）13時30分～15時00分
2. 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
3. 出席委員 西村委員長、植村委員、小林委員、横田委員、宮澤委員、
小山委員、赤松委員、竹内委員、竹森委員
4. 議 事
 - (1) 中学校給食の全員喫食実施に向けた取り組み
 - (2) 学校給食費の公会計化について
 - (3) 食材価格高騰への対応

【議事要旨】

(1) 中学校給食の全員喫食実施に向けた取り組み

(事務局より資料3について説明)

●委員

- ・八多学園で先行実施しているということだが、保護者や子供たちの反応はどうか。

○事務局

- ・子供たちからは、温かくておいしい、量の調節ができるので個々に合った量を喫食できるといった好意的な意見が出ている。学校現場からは、給食時間について30分でも少し足りないという意見をいただいているので他の学校にも共有し、検討を進めている。

●委員

- ・中学校における食育の推進について、栄養教諭の配置等はあるのか。

○事務局

- ・国の基準で、6,000食以上の給食センターには3名の栄養教諭の配置がある。
- ・中学校では2年生の家庭科で食について深く学ぶ機会がある。家庭科の教員とも連携し、食育に取り組んでいきたい。
- ・その日の献立にある地元食材や旬の食材等について、給食時間に放送するなど、子供たちが主体的に発信できるような機会が作れるよう検討していく。

●委員長

- ・献立の中で主食は米飯を基本とし、週に1回程度パンを提供予定とあるが、神戸の特色を意識してのことか。

○事務局

- ・神戸はパンの街として広く知れ渡っており、子供たちも小学校では週に2回パンを食べている。給食でのパンにはなじみがある。
- ・パンが献立に入ること、バリエーションも広がる。
- ・概ね週に1回程度パンを提供することで調整している。

- ・今年5月に行った生徒へのアンケートでも、「たまにはパンが食べたい」という声をいただいている。

●委員

- ・食器は3種類か。食器が増えると洗浄・乾燥に労力がかかる。

○事務局

- ・食器については、パン皿を含めて4種類用意し、献立によって使い分ける。1日で使用するの3種類である。それほど労力が増えるとは考えていない。

(2) 学校給食費の公会計化について

(事務局より資料4について説明)

●委員

- ・未納者への督促を担当、教頭が行っているが、精神的に苦しいこともある。それを教育委員会で引き取っていただけるとありがたい。
- ・兵庫県内の他市の公会計化の導入状況はどうか。

○事務局

- ・兵庫県下では、半数以上の市が公会計へ移行している。近隣では尼崎市や姫路市が移行している。

●委員長

- ・尼崎市や姫路市から公会計化を行ううえでの、課題やトラブル等は聞き取りしているか。

○事務局

- ・給食の申し込み手続きを再度行っていただく必要があり、その際の保護者への説明が大変だったと聞いている。未納対応についても苦慮していると聞いている。

●委員

- ・未納者に対する督促について、具体的にはどのように考えているか。

○事務局

- ・業務委託等は考えておらず、教育委員会事務局の職員が中心となり、人材確保も行いながら対応することを予定している。

●委員

- ・学校で未納対応するのは大変とのことだが、学校は顔の見える関係での徴収が可能。しかし、教育委員会事務局で行うとなると顔の見える関係ではなくなり、徴収は難しくなるのではないか。各家庭の事情に配慮することは可能か。

○事務局

- ・事務局に引き上げることで未納が膨らむ懸念があるが、公平性の観点からも踏み込んだ対応をしていく必要もあると考えている。ただ、事務局は、各家庭の状況など現場の情報を持っていないため、学校と連携していく必要がある。

●委員

- ・顔が見えない関係だからこそうまくいく場合もある。学校側からも情報提供は行う

が、督促は教育委員会事務局で行っていただくことで、学校では保護者との関係を良好に保ったまま教育に専念することが出来る。

(3) 食材価格高騰への対応

(事務局より資料5について説明)

●委員

- ・平成 29 年度に給食費が改定された際には、その前から少しずつおかずに減り、寂しい給食になっていた。栄養を担保できない状況のもと、値上げに至ったと記憶している。
- ・給食でしっかり栄養を取ってもらいたいと思う家庭も多い。
- ・また、平成 29 年度の改定でデザートも出るようになり、子供たちの給食への楽しみも向上したと思う。
- ・値上げの一言で拒絶反応を示す保護者もいると思うが、栄養をしっかり担保できる中での最低限の値上げは仕方がないのではないか。
- ・現状や理由をわかりやすく保護者へ説明出来れば納得できるのではないか。

○事務局

- ・現状では、物価高騰分については公費負担していることもあり、平成 29 年度の改定前のような献立にはなっていない。
- ・物価高騰等でご家庭も厳しい状況の中でやり繰りされていると思う。事務局としても来年度の予算編成に向けて、公費負担の継続について市長部局と協議していきたい。

●委員

- ・公会計化と給食費の改定が同時に行われることで、未納が増えるかもしれない。

●委員長

- ・保護者としても、ある程度の物価高騰には対応しなければならないという気持ちはあると思う。栄養バランスを崩すようなことはやめてもらいたいという意見が多いのではないか。

●委員

- ・デザートを減らすということは極力避けていただきたい。子供たちにとって、学校生活の中で給食の時間は重要である。
- ・給食費を改定するか、献立の質を見直すかの二択であれば、給食費を改定する必要があるのではないかと思う。

●委員

- ・基本的には同じ考えである。子供が学校から帰ってくるとまず、給食の話になる。
- ・中学校が全員喫食になると調達する食材の量が変わるので、今の金額はあまり参考にならないのではないか。全員喫食になった後のシミュレーションをしたうえで、保護者にもしっかりと説明する必要があるのではないか。

●委員長

- ・小学校はすでに全員喫食だが、中学校はこれから段階的に移行していくので、どこを目途に金額設定していくのか考える必要がある。全員喫食になることで、規模の経済が働くかもしれない。ただ、物価高騰が上回ることも予想される。保護者には全員喫食に移行した後のことも踏まえて、きちんと説明していく必要がある。

●委員

- ・物価高騰は今後も続くことが想定されるか。

●委員長

- ・政治と経済が結びついている。社会情勢が不透明な中で、今後も物価高騰は続くのではないか。

●委員

- ・物価高騰と景気が連動していれば、給食費を改定することにそれほど悩まなくてもよいが、そうではない中でどうバランスを取っていくか。公費負担については引き続き協議していくが、国の財源が急に打ち切られた場合に困ることがないように考えておかなければならない。子供たちにしわ寄せがいくことのないように考える必要がある。

○事務局

- ・中学校給食の半額助成については、子育て支援施策全体の観点から、全市的に判断されるべきものと考えている。今後も引き続き市長部局と協議していく。

●委員長

- ・半額助成については、今後も継続していただきたいが、全市のバランスも大切である。給食だけではなく、全体最適の観点から、より良い子供たちへの教育等を考えていただきたい。

●委員

- ・小学校については、給食の質を下げるべきではないと考える。食の素晴らしさを伝える必要がある。中学校では検討の余地があるかもしれない。

●委員長

- ・バランスをどうとっていくのか。説明責任をどう果たすのか。栄養バランスを確保して上で、ギリギリの献立を考えるとということはあるかもしれない。

●委員

- ・中学校では、全員喫食に向けてさまざまな準備を進めている。
- ・月に1回の食缶による温かい給食の際には、給食を頼んでいない子供たちも試食出来るので、お弁当の子もおかわりをし、食缶が空っぽになるまで食べている。
- ・中学生は、大人と見られることもあるが、中身はまだ子供である。思春期で成長期ということもあり、朝ぎりぎりまで寝ることを優先して、朝ご飯を食べてこない生徒もいる。その中で給食をお腹一杯食べて、元気に昼休みを過ごしている。

- ・午前中で終わる日でもできるだけ給食を食べて帰るようにしている。子供が中学生になって働きに出る保護者も多く、栄養が考えられた給食を食べて帰ってくることを喜んでいる。
- ・年に1回の保護者試食会でも、価格や味について好評を得ている。
- ・中学生にとってもデザートは好評である。
- ・朝食を食べず、夜は部活が終わってすぐに塾に行くという子供達もいる中で、お昼だけでも満足に食べることができれば保護者も安心するのではないか。

●委員

- ・特別支援学校の給食は小学校と同じものを出しており、小学生から高校生まで同じものを食べている。小学生はもちろん、高校生もデザートは好きなので必須である。
- ・通院等で午前中に登校できなくても、欠席せずにお昼に給食を食べに来るような子供たちもいる。
- ・給食費の負担は難しいところであり、丁寧な説明がいると思うが、よく考えてもらいたい。

●委員長

- ・給食はただ栄養をとるだけのものではなく、学校の中で一大イベントとなっている。その給食をどうやって守っていくことができるか、知恵を出し合っていきたい。